

PROGRAM

ウェンゼルバーグ:ヒロイック・ドリームスケープ・ファンタジー (約9分)

Benjamin P. Wenzelberg: Heroic Dreamscape Fantasy (Japan Premiere)

※日本初演

ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 op.73 「皇帝」 (約40分)★

Ludwig van Beethoven: Piano Concerto No.5 in E flat major, op.73, "Emperor"

第1楽章 アレグロ *Allegro*

第2楽章 アダージョ・ウン・ポコ・モート *Adagio un poco moto*

第3楽章 ロンド:アレグロ・マ・ノン・トロツポ *Rondo : Allegro ma non troppo*

— 休 憩 (20分) — *Intermission*

ベートーヴェン:交響曲 第3番 変ホ長調 op.55 「英雄」 (約45分)

Ludwig van Beethoven: Symphony No.3 in E flat major, op.55, "Eroica"

第1楽章 アレグロ・コン・ブリオ *Allegro con brio*

第2楽章 葬送行進曲:アダージョ・アッサイ *Marcia funebre: Adagio assai*

第3楽章 スケルツォ:アレグロ・ヴィヴァーチェ *Scherzo: Allegro vivace*

第4楽章 フィナーレ:アレグロ・モルト *Finale: Allegro molto*

指揮・芸術監督:佐渡 裕 *Yutaka Sado, Conductor & Artistic Director*

ピ ア ノ:エフゲニ・ボジャノフ *Evgeni Bozhanov, Piano* (★演奏曲)

管 弦 楽:兵庫芸術文化センター管弦楽団 *Hyogo Performing Arts Center Orchestra*

2020 1/31 (金)・2/1 (土) 3:00PM開演

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

※演奏時間は目安となります。前後する可能性がありますので予めご了承ください。

これさえ
見れば
わかる!

今回の聴きどころ

飯尾 洋一(音楽ライター)

皇帝が君臨し、英雄が飛翔する

2020年といえば、ベートーヴェン生誕250周年。記念すべきベートーヴェン・イヤーを祝って、世界各地でこの偉大な楽聖に焦点を当てたプログラムが組まれている。では、ベートーヴェンのどんなところに注目するのか。本日、佐渡裕芸術監督が焦点を当てるのは、ヒーローの音楽を書いた作曲家ベートーヴェン。ベートーヴェン中期の典型的な作風を「英雄様式」と呼ぶことがある。雄大でスケールが大きく、勇ましい楽想がくりひろげられる。ピアノ協奏曲第5番「皇帝」と交響曲第3番「英雄」は、どちらもそんな共通したヒロイックな性格を持っている。

両作品のもうひとつの共通点は「変ホ長調」というキーで書かれていること。ベートーヴェンはしばしばこのキーに英雄的性格を託した。

さらに現代の若手作曲家ウェンゼルバーグがベートーヴェンの「英雄」に触発されて書いた「ヒロイック・ドリームスケープ・ファンタジー」も演奏される。ベートーヴェンの影響力は現代にも及んでいる。

必聴POINT

ライター
おすすめ!!



ウェンゼルバーグ:ヒロイック・ドリームスケープ・ファンタジー

《ベートーヴェンの精神が現代によみがえる!?!》

現代の作曲家ウェンゼルバーグは、ベートーヴェンの「英雄」に登場する主題を用いて「ヒロイック・ドリームスケープ・ファンタジー」を書いた。2016年の新作が日本初演される。いったいどんな作品なのか?

ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 op.73 「皇帝」

《エフゲニ・ボジャノフの華麗なピアノ独奏》

ピアノ協奏曲第5番「皇帝」は、そのニックネームにふさわしく、きらびやかで壮麗な作品。ブルガリア出身の気鋭ボジャノフの華麗なソロにご注目。

ベートーヴェン:交響曲 第3番 変ホ長調 op.55 「英雄」

《「英雄」第4楽章の変奏曲》

交響曲第3番「英雄」の第4楽章は変奏曲のスタイルで書かれている。そのテーマはベートーヴェンが他の作品でもくりかえし使ったものであり、ウェンゼルバーグの新作でも引用される。ひとつのテーマがどう姿を変えてゆくのか。作曲技法の妙。

PROGRAM NOTE

曲目解説 —
演奏をより深く楽しむために
東条 碩夫(音楽評論)



ウェンゼルバーグ:ヒロイック・ドリームスケープ・ファンタジー

初演: 2016年9月5日 グラフェネック(オーストリア)

英雄がよみがえる夢の情景

ベートーヴェンは交響曲第3番「英雄」の第4楽章を自作の主題による変奏曲として構成した。この自作主題はバレエ音楽「プロメテウスの創造物」から転用されたもの。同じ主題はピアノのための創作主題による15の変奏曲とフーガ、通称「エロイカ変奏曲」でも使用されている。現代アメリカの若い作曲家ウェンゼルバーグは、ベートーヴェンがくりかえし用いたこのエロイカの主題に触発されて、「ヒロイック・ドリームスケープ・ファンタジー」を作曲した。ベートーヴェンの主題が、現代的な手法で変容され、新たな作品として再創造される。

曲は約8分半ほどの長さ。二管編成のオーケストラにピアノや多種多様な打楽器群が



作曲家プロフィール **ベンジャミン・P・ウェンゼルバーグ(1999-)**
Benjamin P. Wenzelberg

アメリカの作曲家であり、指揮者であり、カウンターテノールの歌手であり、クラシック/ジャズのピアニスト。少年時代よりその才能を囑望され、十代から幅広いフィールドで活躍している。歌手としてはメトロポリタン・オペラでラトル指揮のもと独唱を務め、指揮者としてはボストン・ポップスを指揮するなど、異例の注目を集める。作曲家としてもオーストリアのグラフェネック音楽祭で脚光を浴びた。

加わる。軽やかなフルートによる簡潔な前口上の後、強奏の一撃があり、曲が進む。すぐにベートーヴェンの「英雄」からの引用が聴きとれるだろう。随所に「英雄」の断片が散りばめられ、過去と現在を行きつ戻りつするかのように、一種の夢の情景が描き出される。最後は在りし日の英雄を懐かしむかのようなムードのなかで、幻想的に曲を閉じる。

楽器編成

フルート2(ピッコロ持替)、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン、チューバ、ティンパニ、クラッシュド・シンバル、サスペンデッド・シンバル、スネアドラム、グロッケンシュピール、タムタム、鞭、トライアングル、カステネット、ハープ、ピアノ、チェレスタ、弦楽5部

ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第5番 変ホ長調 op.73「皇帝」

初演: 1811年11月28日 ライプツィヒ、ゲヴァントハウス

「皇帝」の愛称にふさわしい雄渾華麗な協奏曲

「皇帝」の題は愛称であって、ベートーヴェン本人が付けたものではない。しかし、この堂々たる雄渾な曲想にこれほど似合う愛称もないだろう。全編にわたって覇気にあふれ、高揚感がみなぎっている。

作曲は1809年から1810年にかけて。当時、ウィーンはナポレオン軍の侵攻を受けていた。支援者である貴族たちが疎開してしまい、ウィーンから音楽活動が途絶える苦境のなかで、ベートーヴェンは旺盛な創作力を失うことなく、最後のピアノ協奏曲となるピアノ協奏曲第5番「皇帝」を書きあげた。

それまでのピアノ協奏曲ではもっぱらベートーヴェン自身がソリストを務めていたが、この第5番では作曲者に代わってフリードリヒ・シュナイダーが独奏を担った。というのも、すでにこのときベートーヴェンの聴力は衰えており、自身が協奏曲のソリストを務めるのは難しくなっていた。自作を演奏できないとなれば、これを最後に作曲者がピアノ協奏曲の分野から離れたのはもっともなことだろう。

佐渡 裕 音楽の贈りもの ベートーヴェン「皇帝」&「英雄」

PROGRAM NOTE

第1楽章	アレグロ 冒頭の総奏に続いてすぐさま独奏ピアノが登場し、華麗なパッセージを奏でる。これは当時の協奏曲としては新機軸。推進力にあふれた楽想が展開される。当時の協奏曲の通例として、楽章終盤にはソリストのための自由なカデンツァが置かれるものだが、ここではカデンツァと作品本体が一体化されており、ソリストに裁量は与えられていない。
第2楽章	アダージョ・ウン・ポコ・モート 瞑想的で平穏な主題が変奏される。最後にピアノが終楽章を予告するフレーズを奏でて、切れ目なく終楽章に続く。
第3楽章	ロンド:アレグロ・マ・ノン・トロツポ 勇躍するような主題で開始され、エネルギーに高潮する。ピアノと管弦楽が掛けあいをくりかえしながら、輝かしいフィナーレへと突き進む。
楽器編成	独奏ピアノ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部

ベートーヴェン:交響曲第3番 変ホ長調 op.55 「英雄」

初演:1804年 ウィーン、ロブコヴィツ邸で試演、1805年 アン・デア・ウィーン劇場で公開初演

前代未聞、天地を揺るがす大交響曲

「英雄」とはだれのことか。当初、ベートーヴェンが念頭に置いていたのはナポレオン・ボナパルトである。1803年、ベートーヴェンの弟子フェルディナント・リースは、楽譜出版者ジムロックに宛てて、こう書いた。

「ベートーヴェンはあなたに交響曲を100グルデンで売るつもりです。この作品はこれまでで最大のものだと言っています。最近ベートーヴェンが私にこの作品を弾いてくれましたが、演奏されれば天地を揺るがすことになるでしょう。彼はこの作品をナポレオン・ボナパルトに献呈することを切望しています」

しかし、ベートーヴェンはナポレオンへの献呈を取りやめてしまう。リースによれば、

ナポレオンが皇帝に即位すると宣言すると、ベートーヴェンは激怒して「ボナパルト」と書かれたスコアの表紙を破り捨てたという。初版譜の表紙には、ただ「英雄交響曲 ある偉大な人物の思い出を記念して」と記されるに留まった。

作品は当時の交響曲の基準から並外れて巨大である。ここに具体的なストーリーが盛り込まれているわけではないが、ヒロイックな楽想や葬送行進曲、祝祭的なフィナーレなど、楽曲からひとつの大きなドラマを感じ取ることは難しくない。従来の気軽に接する交響曲から、大きなドラマと向き合う交響曲へ。「英雄」は交響曲のあり方を決定的に変貌させた記念碑的傑作といえるだろう。

第1楽章	アレグロ・コン・プリオ 叩きつけるような総奏の連打で幕を開け、雄大な楽想がくりひろげられる。
第2楽章	葬送行進曲:アダージョ・アッサイ 英雄の死を悼み、葬列は厳かにゆっくりと進む。やがて幻影のように淡く消える。
第3楽章	スケルツォ:アレグロ・ヴィヴァーチェ 中間部では3本のホルンが決然と戦闘の合図を告げる。
第4楽章	フィナーレ:アレグロ・モルト 旧作 旧作「プロメテウスの創造物」等でも使われた自作主題をもとにした大規模な変奏曲。
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン3、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部



作曲家プロフィール ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)
Ludwig van Beethoven

ドイツに生まれウィーンで活躍した作曲家。ハイドン、モーツァルトに続いて古典派様式を受け継ぎながらも、さまざまな革新をもたらして後世の作曲家に巨大な影響を及ぼした。とりわけ9曲の交響曲は西洋音楽史における金字塔として名高い。音楽における主観性を明確に打ち出し、ドラマティックな個人様式を確立。耳疾により聴力を喪失するもこれを克服し、ヒロイズムや精神的崇高さを音楽によって表現した。